



糖尿病患者のフットケア

フットケア外来のシステムとケアの実例

京都大学医学部附属病院看護実践開発センター
定価2,100円(税込), B5判, 医学書院, 2004
☎ 03-3817-5657

フットケアをはじめて
みませんか？

評者●和田 幹子 (社)日本看護協会

現在、「糖尿病を強く疑われている人」のうち、約1.6%の方が壊疽を合併しているといわれています。また、糖尿病患者さんの60～70%が、軽度から重度の神経障害をもっているといわれています。妊娠時の検査で初めて糖尿病と診断された方は、比較的発症後間もない若い方が多いかもしれません。しかし、糖尿病の足病変に直結する神経障害は糖尿病と診断されたころから徐々に進行が始まっています。初期のうちに動機づけができれば、将来、壊疽を予防することもできます。

本書は周産期にある方にフットケアをはじめたいと考えている助産師・看護師や、糖尿病の妊婦さんや患者さんに生活の指導をする機会が多い医療者にぜひ参考にしてほしいフットケアの実践書です。

糖尿病の妊婦さんの生活指導を行なうとき、血糖のこと、食事のこと、運動のこと……で終わっていることが間々あると思います。「血糖、食事、運動だけでも大変なボリュームになるし、実はそれ以外のことはあまり知らない……」という方も多いのではないのでしょうか。目の前の糖尿病妊婦さんの足の先までは見たことがない医療スタッフも決して少なくないのではないかと思います。

妊娠後期で足の手入れが難しかったり、切迫早産などで長期に入院されている妊産婦さんの足を、一度足先までしっかり観察してみませんか？本書は、ポイントを絞った足病変の観察から、べんち・鶏眼の削り方まで、ケアの1つひとつに丁寧な解説を交えたマニュアル形式でフットケア初心者を導いてくれます。

足病変の誘因は「くつずれ」が断然トップであり、全体のおよそ7割を占めているそうです(本書50頁より)。これらの誘因を取り除かなければ、足病変に移行する確率は高くなります。執筆者の1人である阿部邦子氏(京都大学医学部附属病院・師長)は、実際に健康くつを履き、靴調整士やシューフィッターに会い、適正なくつ選びのために実践した多くのことを惜しみなく著してくれています。本書を読むことで、くつの観察ポイントとくつ選びの要点に気づくことができます。フットケアのことをあまりよく知らないという方でも安心してください。足病変の発生機序や予防・治療についても大変わかりやすくまとめられ、実際に活用されているケア経過表や評価表、診療報酬の算定方法の掲載もあります。‘まさにすぐにでも使える’実践者のためのテキストです。

臨床の間では、不思議とフットケアの際に患者さんが悩みをうちあけてくれることが多く、日常生活や療養上で困っていることに気づく機会も多いように思います。本書にも「たかが爪切りと思っていたが、Tさんに喜んでもらい、心の交流にもなるこの時間を大切にしよう」(本書10頁より)とあり、フットケアの時間を大切にしている執筆者の思いが伝わってきます。患者さんの足を大切に思いケアをすることは、患者さん自身を大切にすることにつながり、心の交流が生まれ、患者さんの本音に触れることができるのではないのでしょうか。

第一線で周産期の妊産婦さんや糖尿病の患者さんの指導に携わっている方にこそ、ぜひ参考にしていただきたい一冊です。